

住民ボランティアと介護事業所との協働による買い物支援(小山市)

【基本情報】

団体名: 羽川北自治会(買い物支援推進委員会)

構成メンバー: 自治会長、民生委員、健康推進員、ボランティア

【取り組み概要】

対象者層: 自治会在住の65歳以上独居、高齢者のみ世帯で希望する方等

活動場所: 近隣のスーパー

活動頻度: 月2回

利用料金: 200円/回

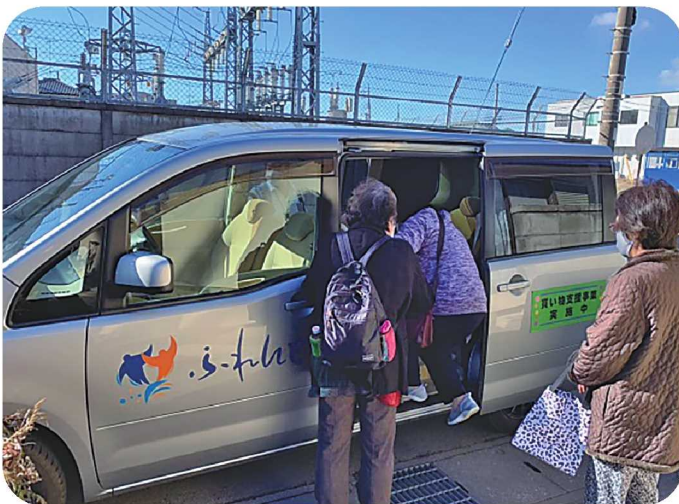
平均利用者数: 利用者3名

●取り組みの内容

自治会内の独居高齢者及び高齢者のみの世帯を対象に、通所介護事業所が所有している送迎車の空き時間を活用し、地域住民ボランティア等と協働で買い物支援を実施。

●取り組みをはじめたきっかけ

第1層協議体において検討する中で、高齢者の課題の一つとして、買い物支援に焦点を当て協議を重ねてきた。他市の取り組みについて調査、視察等を行い、小山市ではどのような形で実施できるか検討を重ね、取り組みを希望する自治会と協力可能な事業所とのマッチングを行い、モデル事業として開始した。



●取り組みにあたっての工夫点

モデル事業終了後、自治会主体の事業に移行したが、引き続き円滑に活動できるよう、会議への参加や進捗状況の確認等、バックアップしている。

生活支援コーディネーター間で情報を共有し、他の自治会を支援する際に、この取り組みを事例として紹介するなど、活動を広げている。

●効果・実績

買い物支援だけでなく、地域住民同士の交流や高齢者の見守りにもなっている。
他の地域に広めていくにあたり、通所介護事業所との協働による買い物支援の仕組みづくりができた。

●活動にあたり連携している団体等

・山田記念ふれんど羽川デイサービスセンター



●活動に関する広報方法

・自治会内回覧
・個別の声かけ

●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

・立ち上げの際に自治会と介護事業所との協議の場を設定
・保険についての情報提供
・自治会への周知方法についての助言
・地域の高齢者の買い物のニーズについて実態把握を行い、自治会に情報提供

●現時点での課題・今後の展開

現在、新型コロナウイルス感染症による大きな影響はないが、感染拡大等により、事業所利用者以外への支援が困難となると、本事業の継続が困難となる。

月2回以上の支援を行う場合の事業所への負担や利用者が増えた場合の対応を検討する必要がある。

買い物に困っている多くの方に対する支援拡大とボランティアの確保に向け、隣接自治会と協働できる体制・仕組みづくりが必要である。



サロンを拠点とした移動販売(真岡市)

【基本情報】

団体名:真岡市商店会連合会	団体名:ふれあい・いきいきサロン(57か所中15か所が登録)
構成メンバー:市内の各商店会	参加メンバー:高齢者等
電話番号:0285-82-8844(真岡市社会福祉協議会)	活動場所:地域公民館等

【取り組み概要】

対象者層:登録サロン利用者等(サロン参加者以外の利用も可)	
活動場所:地域公民館	活動頻度:各サロン月1~2回
利用料金:なし	平均利用者数:15人(推定)

●取り組みの内容

地域の移動に関する課題の解決及び商店会の活性化を図るため、真岡市社会福祉協議会が実施している「ふれあい・いきいきサロン事業」と真岡市商店会連合会をマッチングさせた移動販売の実施。

※「ふれあい・いきいきサロン事業」

高齢者の閉じこもり防止等を目的に、区・町会等のエリアを対象に実施している「居場所づくり」に対して、参加延べ人数により2万円~5万円の補助金を社協が交付するもの。

●取り組みをはじめたきっかけ

第2層協議体の協議や協議体設置準備期の調査において、「居場所づくり」、「見守り」、「移動手段の確保」を課題として把握していた。

この中で、第1層協議体で対応した方が良いと考えた「移動手段の確保」について、取り組みを検討することとなった。

●取り組みにあたっての工夫点

高齢者等が集まるサロンを移動販売の拠点にすることにより、事業の効率化を図った。

また、サロン参加者以外の利用も可能とすることで、多世代交流や地域活動の見える化の効果も期待される。

●効果・実績

現在15か所のサロンが登録し、うち9か所のサロンで利用を開始している。令和2(2020)年3月末日現在、延べ20回の移動販売が実施された。



●活動にあたり連携している団体等

- ・真岡市商店会連合会(事務局:真岡商工会議所)
- ・ふれあい・いきいきサロン



●活動に関する広報方法

- ・サロン運営者向け説明会の実施
- ・サロン運営者座談会での事例紹介
- ・社会福祉協議会ホームページ、社協だよりのほか、下野新聞でも紹介

●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

- ・サロン運営者を対象としたアンケート調査の実施
- ・真岡市商店会連合会との調整
- ・サロン運営者向け説明会の実施
- ・令和元(2019)年10月 商店会連合会と真岡市社会福祉協議会の協定締結
- ・令和元(2019)年11月 移動販売開始
- ・商店会連合会と実施状況確認

●現時点での課題・今後の展開

「ふれあい・いきいきサロン事業」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2(2020)年8月末日から中止していたが、令和3(2021)年4月からは、3密を避けた「青空サロン・時間差サロン・通信サロン」の3つの新しいサロンの形を提案し、再開している。



佐久山地区外出支援事業(大田原市)

【基本情報】

団体名:佐久山地区社会福祉協議会 外出支援事業

構成メンバー:佐久山地区在住のボランティア(17名)

電話番号:0287-23-1130(大田原市社協)

メールアドレス: ohtawara-shakyou@rapid.ocn.ne.jp

【取り組み概要】

対象者層:佐久山地区内の高齢者や障害者等

活動頻度:月曜日から金曜日(午前中のみ)

活動場所:大田原市内及び隣接市町村

平均利用者数:月平均16人(2019/4/26~2020/3/31 195名)

利用料金:無料

●取り組みの内容

佐久山地区内に居住し、通院、買い物、地域の行事等へ出かけるための交通手段の確保が困難な方を対象とした外出支援の実施。

●取り組みをはじめたきっかけ

平成21(2009)年度に国(厚生労働省)が募集したモデル事業(安心生活創造事業)に大田原市が応募し、高齢者の見守りが始まった。平成23(2011)年2月8日に、佐久山地区においても、高齢者の見守りがスタートしたが、戸別訪問時に交通の便が不便で病院や買い物に困っているとの現実を知ることとなり、地域の課題として取り組むようになった。

●取り組みにあたっての工夫点

佐久山地区公民館の調理室を使用し、地区内の60代男性を対象とした「男の料理教室」を開催したところ、参加者から「懇親会を開催してはどうか」との提案があり、地区内の居場所「あべさんち」(平成29(2017)年2月開所)を会場に、年2回程度の懇親会を開催することとなった。この懇親会への参加者に対して、「地域で外出に困っている高齢者を対象に、無料の外出支援(ボランティア)を実施するので協力してほしい」と相談したところ、協力を得ることができた。



●効果・実績

外出支援の利用者の口コミや事前予約が浸透してきたため、申し込みが増えてきた。

病院の通院の予約(71名)、行事等(ほほえみセンター)の利用(94名)、買い物への利用(20名)、その他(駅の送迎10名)

●活動に当たり連携している団体等

- ・NPO法人あすなろ友の会
- ・佐久山おもいやり隊
- ・佐久山地区活性化協議会
- ・佐久山地区区長会



●活動に関する広報方法

- ・佐久山地区内に無料外出支援PR広報を全戸配布

●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

- ・地域のニーズに合わせ外出支援事業との調整及び新たな担い手の発掘

●現時点での課題・今後の展開

新たなドライバーを募集し、午後も稼働できるよう検討中。

新型コロナウイルス感染症の感染防止として、ドライバー及び利用者にはマスクの着用、手指消毒、車内の換気対応、非接触型の体温計を利用し37.5℃を超える体温がある場合は利用できないことを周知する。

